



女もすなる都市計画 開催報告！ 12月17日、24日開催 「わが街を考えてみよう」第十二回 in 静岡/浜松

今回は静岡事務所、浜松事務所ともに今までの勉強会を踏まえ、まちづくりに関わる話題をもとに「こうしたい！なぜこうなの？」を本音で率直に語り合いました。

◆静岡市

○効果的な投資で効率的な都市へ（LRTとアセットマネージメント）

まずは、静岡駅周辺・新清水駅周辺に構想されているLRTについて、提示されている4つのルートを見ての第1声、「距離が短くて何のためか意図がわからない」「バスを無くすわけにはいかないから道が混むだけでは？」等々、厳しい声が続いた。財政が厳しい状況に市民も大きな懸念を抱くようになってきている。LRT整備は多額の投資にである。LRT整備推進には、郊外と中心部を結ぶことによる利便性の格段の向上等、明確なメリットを示すことで、市民の理解を得ることが鍵となるようだ。

財政の厳しさへの懸念に関連して、市が進めているアセットマネージメントについて話題が及んだ。高度経済成長期以後活発に建設されてきた多くの公共施設が更新時期を迎えている。建替え計画等、新聞などで目にすることもあるが、住民には、知らない間に計画が進み、気づけば場当たりに施設の建設が進んでいると感じることも多いようだ。市民へときちんと説明しつつ、効率的で利便性の高い機能配置を施設の更新を契機に戦略的に進めることが求められている。

※アセットマネージメント：計画的に効率よく施設の整備や維持管理を行うことで施設の寿命を延ばしたり、利活用促進や統廃合をすすめることで将来の軽減を図り、都市経営上の健全性を維持していく手法。

第七回講演会予告③

スポーツを活用したまちづくり ～スポーツ振興の歴史～



今まで

日本でスポーツが文化として認知されはじめたのは明治時代に遡る。その当時、軍事訓練の体操として伝わり、学校「教育」に取り入れられていた。そして昭和時代になると学校のクラブとともにスポーツを牽引したのは、「企業」であった。社員同士の結束を高め愛社精神を醸成させることや、企業のイメージアップを図るツールとして活用されてきた。

しかし、近年のリーマンショックのような、急激な経済状況の変化により、輝かしい歴史・実績をもつチームであっても、ある日、休廃部され、消えてしまうといったことがくりかえされてきた。

競技レベルの向上やスポーツ環境の整備等、社会的メリットがある反面、企業の事情で左右される不安定さを内包している。



これから

この影響を受け、持続的なクラブ経営に注目が集まり2つの考え方が謳われるようになった。

それは、スポーツを産業化すること、「地域」が支えることだ。今まで教育や企業スポーツに支えられてきたため、スポーツはアマチュアがするものだと認識されており、エンタテインメントビジネスとして成立させる概念がなかった。特に企業がこの概念をもち、企業スポーツを福利厚生ではなく、主要事業の1つに据えることができれば、その競技リーグは大きく変わってくるだろう。

さらに地域でスポーツを産業として成立させれば、拡張性があるため恩恵を受ける業種も多い。このような経済効果だけではなく、地域の愛着を育むといった効果も期待できるスポーツの可能性はまだまだ秘められている。

◆浜松市

○農と食、文化を活かした特色のあるまちづくりを

街の顔である中心市街地を元気にするために様々な意見がでた。実は、浜松市は農業生産額の市町村ランキング（H18）で全国4位であることを知り、驚きの声があがった。これを活かした軽トラ市等を定期的に活動を重ねることで、浜松市ならではの農業と都市が共存するイメージ醸成に役立ち、食への関心の高まりを背景に、住む場所としての中心部の魅力を打ち出す上で有効な方法だとの意見が出された。

また、松菱跡地の整備に対して、美術館の移転を強く望む声が出た他、ゆりの木通り万年橋パーキングでの個性的なイベントの紹介やそれらを評価する声があがり、市民が自分たちの思い（価値観・こだわり）を表現できる場や文化的機能の充実の重要性が指摘された。

これまでの勉強会において、住民組織の脆弱さが課題として話題になっていたが、とりわけ防災時共助体制に対する懸念、特に浜松駅区画整理区域等、新たな住民が多い地域において対応が遅れているとの指摘があった。その対策として、アクティビティは立地も空間としても、災害時の医療支援拠点として適しており、防災拠点としての活用を図るべきとのアイデアが出された。加えて、自治会を地域の課題を考える組織に変えていく必要性が指摘された。（現在のイメージはお祭りのための組織というイメージしかないという厳しい意見も出た。）志縁組織であるNPO等と地縁組織である自治会とが連携し、お互いの得意な点を活かしながら、地域自治の力を高めていくことで、地域の住民の組織としての核を再構築していくことを望む声があがった。

御礼

女もすなる都市計画勉強会を終えることができました！ ～全12回 静岡会場・浜松会場にて～

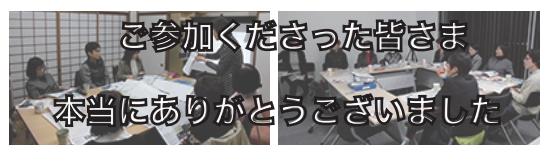
12月の勉強会をもって、第一弾『女もすなる都市計画勉強会』を終了した。1回平均10名、中には全講義に出席頂いた方もいた。

なかなか触れる機会がない都市計画。ほど遠い世界にあるものと思われがちだが、街の様々な場面で影響をもつ、暮らしに密着した存在である。「少しなじむだけでも、まちへの観方が広がった」といった感想をいただくことができた。

参加者の方は、市議会議員や市役所職員、市民団体やNPOで地道にまちづくり活動を重ねてきた方、活動をしていないがまちづくりに関心がある方など、様々な・バックグラウンドをお持ちであったため、活発で多面的な議論を交わすことができた。市民だからこそその忌憚のない意見は、時に核心をつくものであり、まちづくりを考える際に忘れてはいけない重要な視点でばかりであった。事務局にとっても実り多い勉強会となりました。

| 目的 | 内容 | |
|-----------|-----|---|
| オリエンテーション | 1月 | 都市計画ってなに？ |
| 都市を知る調べる | 2月 | 空間を把握する 地図を読む、計画図を読む、ICT(GISなど)の活用 |
| | 3月 | 都市形成の歴史を知る |
| | 4月 | 人・組織を把握する 役割と関係 |
| 将来像を考える | 5月 | 分析する 都市構造 内部環境・外部環境 |
| | 6月 | 都市の理想像を考える 理想像の歴史 これからの都市像 |
| | 7月 | 魅力的な都市を調べる 土地利用・環境 |
| わが街を知る | 8月 | 魅力的な都市を調べる 協働・交通・文化 |
| | 9月 | まちを調べる (静岡)まちの歴史 清水 (浜松)まちの歴史 静岡 |
| | 10月 | まちを調べる (静岡)まちの歴史 東静岡 (浜松)まちの歴史 担い手・組織 |
| | 11月 | まちを調べる (静岡)まちの歴史 静岡駅 (浜松)まちの歴史 |
| | 12月 | 現状を再確認 どうする？こうしたい！ |

▲1年間の年間スケジュール
様々な視点で「まち」について皆様と考えることができました。



まちサポF U J I 理事コラム⑫

当NPO理事長
静岡文化芸術大学名誉教授



川口 宗敏

静岡県文化財団が主催している地域文化活動賞という表彰制度があり昭和62年度が第1回の表彰であるというから、約30年の歴史がある。

私は、昨年度から審査員として参加している。その目的は、県民文化の振興を通して生活の向上と活力あふれる郷土づくりに資することにあり県内各地の地域活性化に貢献する優れた文化活動に取り組む文化団体を表彰している。毎年、おおよそ50件程の応募がある。その内容は、音楽、演劇、舞踊、伝統・民俗芸能、美術、文芸、映像文化、生活文化、文化支援、文化交流とジャンルは多岐わたる。その中から、最優秀賞の活動賞1点、奨励賞5点を選考する。

今年度の活動賞には、志太こどもミュージカル実行委員会と静岡昆虫同好会の2団体が選ばれた。通常、活動賞は1団体しか受賞しない。ただ今年度は、共に内容が優れており、ジャンルが大きく異なっているため、比較できないということで、2団体が受賞することとなった。

審査資料である各応募者の提出資料を閲覧しての感想であるが、静岡県内だけでも、実に多くの団体が、多種多様で活発な文化活動を展開していることに驚く。

文化活動のジャンル、世代、年齢構成、参加人数、組織形態、活動場所、活動内容など、実に印象深く、感心させられる団体が多く、それらに優劣をつけることの難しさを感じる。その中でも、私自身は、活動内容の展開に年ごとに工夫の跡が見られる団体や、逆に地道な活動内容ながらも根気強く長く継続している団体に、感心させられる。地域文化活動賞の審査は、提出書類だけで行われる。その方法で結論を出すことに問題はないと思うが、私個人としては、できることならば優れた活動を展開している幾つかの団体から、直接、色々な話を聞きたいと思った。運営資金確保の仕方、長期に団体を維持していく工夫、団体参加者なり賛同者の集め方など、NPO法人が組織を維持していくための素晴らしい多くのヒントが、そこにはあると感じている。

〔プロフィール〕

ハーバード大学大学院デザイン学部 都市デザイン学科修了。都市計画、都市デザイン、建築デザイン、ランドスケープデザインを中心に国際的に活躍。ユネスコ世界青年建築家国際設計コンクール グランプリ受賞（1983年）等デザイン賞多数。著書に「川口の空間美」（2012年）等。各地で「景観」や「地域づくり」等の講演を行う。国土交通省中部地方整備局景観アドバイザー、静岡県住まいの文化賞審査委員長等の公職多数。

【メッセージ】 地域の人々が自信を持てるブランドづくり。

今後の活動情報

◆ 講演会 ◆

多業種多分野の著名な方々をお招きし、それぞれの立場・視点からまちづくり・むらづくりの課題、将来像を語って頂く講演会・交流会を開催しております。

| 日時 | テーマ・内容 | 場所 |
|-----------------|------------------|-----|
| 2016年 1,2月予定 | 第七回 スポーツで拓くまちの魅力 | 静岡市 |

○各回資料代：非会員 500 円／人（税込）、正会員無料。

第七回講演会の講師

山谷拓志氏
(株)つくばスポーツエンターテインメント代表取締役社長
渡部 晋氏
静岡県中部地域スポーツ産業振興協議会会長

◆ ご挨拶 ◆

本年もお世話になりました！

皆様のご支援お力添えのおかげで、当NPOにとって実り多い1年にすることができました。心より御礼申し上げます。また来年が、皆様にとりまして幸多き1年になることをお祈り致します。

◇ お申込み方法 ◇

本誌右下の連絡先まで、FAX または E-mail にて、①ご参加希望の講演会または勉強会の名称・開催日・勉強会は会場、②お名前、③ご連絡先の住所・電話番号・FAX番号・E-mail、④ご所属、⑤交流会への参加有無をご連絡ください。費用は当日受付にてお支払ください。

※最新情報は、当NPOのHP (<http://npofuji.jp>) ご参照ください。

会員募集

当NPOの趣旨にご賛同いただき、会員になってくださる方を募集しております。まちづくり・むらづくりに関心のある、支援・参加したい方々をお待ちしております。正会員には講演会レポートや会報「FUJI通信」の送付、当NPO主催の講演会等への参加費の割引/無料等の特典がございます。

○会費：

入会金) 正会員 3,000 円 賛助会員 1,000 円

年会費) 正会員 6,000 円／一口 賛助会員 1,000 円／一口

○振込先：

静岡銀行清水中央支店 (店番 144) 普通 0950668

特定非営利活動法人まちづくりサポーターFUJI

理事 川口宗敏

トクヒ) マチツクリサポーターフジ

○お申込み：

上記振込先にお振込み後、下記連絡先まで、FAXまたは、E-mailにて、①お名前、②ご連絡先の住所・電話番号・FAX番号・E-mail、③ご所属、④お振込み口数をご連絡ください。ご連絡先は、お勤め先でもご自宅でも結構です。後日、領収書と会員番号をお送りします。



連絡先



NPO法人まちづくりサポーターFUJI 事務局

電話 : 053-525-8511 FAX : 053-533-3203

E-mail : info@npofuji.jp